

令和5年度第1回すみだタウンミーティング 実施報告書

テーマ

新しい時代の子どもの居場所 ～みんなで考える、すみだでの子育て～

実施日時・会場

令和5年8月3日(木) 午後6時30分～午後8時30分

iU 情報経営イノベーション専門職大学 iU ホール

対象者

墨田区在住・在勤・在学者

参加人数

会場 36名

オンライン 3名



タウンミーティング実施概要

- (1) 企画運営委員による他自治体の事例紹介
- (2) グループワーク 移り変わる「子どもの居場所」
「子どもの居場所」が、過去から現在にかけて、どのように変遷してきたか、グループで共有する。
- (3) グループワーク 未来の「子どもの居場所」を考える
これからの「子どもの居場所」として、どのような居場所があったら良いか、子どもや保護者の視点からアイデアを出し合う。

各グループの発表内容

- (1) 移り変わる「子どもの居場所」
 - ・グループF
携帯を持っている子どもは SNS が居場所になっているかもしれないが、携帯も無い子どもは居場所が無い。図書館とか公民館のような居場所はたくさんあるが、そもそも家を居場所とっていない家庭も多いと感じた。
- (2) 未来の「子どもの居場所」を考える
 - ・グループB
子どもの漫画カフェや駄菓子屋など、不登校の子どもでも、誰でも参加しやすいサードプレイスづくりが出来たら良い。様々なサードプレイスの中から、子どもが選んでいける墨田区になるとよい。
 - ・グループA
子どもが遊んでいく中で、いろいろな場所に行けない・行かなくても、一つの場所に行けば、本を読んだり遊んだり、様々なことができる複合施設があると良い。また、昔だったら大人に怒られそうな遊びでも、大人の方のサポート等により、できるようになっている場所もあるので、五感を使った体験学習ができる場所が増えていくと良い。

・グループC

現状の居場所は、たくさんあるが認知されていない。居場所があっても情報格差があり役に立っていないのではないかと。お年寄りの方と子ども、大学生と子どもなど、縦のつながりを大事にすることで墨田区すべてが居場所になると良い。具体策として、墨田区には下町の工場などがあるので、職業体験のような機会があれば、伝統文化の継承に困っている方ともつながりができる。また、何でもしていいカフェや、寺子屋みたいな場所があると良い。

・グループD

子ども食堂等の運営について、横の連携による活用や、企業等ともつながれたら、運営や資金面の解決にもつながっていくのではないかと。また、キッズニアのような職業体験が気軽にできる場所があると良い。緑小学校の放課後事業のように、地域の方たちの力を借りながら区内の学校全てで実施できれば子どもたちがいろいろなところに遊びに行ける。

情報格差について、様々な場があっても認知されていない声の届かない子どもたちにどう届けたいかが悩みである。また、お年寄りにも孤立している人が多いので、子どもとマッチングできるようなシステムを区が作り活用できると良い。

・グループE

ゲームセンターなどの人工的な場所が子どもの居場所になってしまっていることが多いので、もっと野生を取り戻してほしい。火を使える場所があると良い。野生を取り戻すにはその場所を区外に求める方法もあるため、そういった場所に行く支援金等を出したらどうか。ただし身近にあった方がより嬉しいので、ゲームのリアル化を提言する。水鉄砲や化石掘りを疑似体験できる場所や、公園など、五感をフルに使え場所を提供することで、自然と子どもも興味を持って体を動かすことができるのではないかと。

